

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674100124		
法人名	医療法人社団 洛和会		
事業所名	洛和グループホーム北花山		
所在地	山科区北花山中道町109-12		
自己評価作成日	平成24年11月28日	評価結果市町村受理日	平成27年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はGH北花山で10月に秋祭りを開催しました。地域の方にも大勢参加していただきました。今後も毎年、開催していきたいと思っています。それと地域の行事にも少しずつですが利用者さんと一緒に参加し地域の方との交流を持ちたいと取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2674100124-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年1月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「その人らしい生活を支え それぞれの力を発揮できる場所づくり」と理念に謳い、利用者のやりたいこととできることを活かし、その人らしい生活を支えられるよう利用者の傍に寄り添いながら日々のケアに努めています。また経年の中で重度化が進み、車いすの利用者も移動しやすく快適な共用空間となるよう家具の配置など様々な工夫を行っています。今年度のホーム主催の秋祭りには地域から多くの参加が得られ、利用者が子供達とふれ合い交流したり、地域の公園体操などにも積極的に出かけ、地域の方から気軽に声をかけてもらうなど利用者の楽しみとなっています。運営推進会議で得られた意見を基にホームの様子を載せた便りを毎月発行し行政にも置いてもらう等、ホームを地域の方に知ってもらえるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人に理念を元に、ホーム独自の理念を作成し玄関に掲示している。理念の唱和を毎朝行なっている	利用者の力が発揮できる環境の中でその人らしい生活を支えたいとの思いを込めた理念を作り、玄関に掲示し法人の理念と共に唱和し全職員の意識付けを図っています。その人らしい生活や理念にそったケアが提供できているか毎月のカンファレンスで確認や振り返りを行い、全職員と共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しに参加している。秋祭りをい地域との交流を図った。	利用者と一緒に回覧板を届け、地元の野菜を買いに出かけたり、町会の祭りや運動会、餅つき大会などに積極的に参加し、子供たちとも交流しています。ボランティアや地域包括支援センター職員の協力で毎週「公園体操」に出かけ、地域の方と気軽に声をかけ合っています。ホームが主催する秋祭りには各戸に案内を配り、参加が得られ地域との交流が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の開催など、事業所の特性を活用している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には町内の方、地域包括の職員、事業所の職員、利用者が参加している。状況報告や行事などの助言をいただいている	会議は、地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民、利用者等の参加の下に隔月に開催しています。現状や事故についての報告などを行い筋力アップに繋げる散歩コースの情報を得たり、参加者からの提案で、ホームの広報誌を毎月発行に変え行政にも置いてもらうなど、地域へ情報を発信し交流が深まるよう取り組んでいます。議事録は家族に送付しています。	利用者の参加も多く地域住民との関係を築く有意義な会議となっていますが、今後は家族の参加が得られるような取り組みを検討されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護事業部の組織として、連絡を取り合っている	分からない事は行政の窓口に出向いて相談したり、案内をもらい地域ケア会議に出席しています。法人が窓口となって行政と連携を図り、事故報告などもいホームの実情を知ってもらっています。	
	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としての身体拘束の研修があり、知識や意識の向上に努めている。事業所で伝達研修を行い、スタッフ全体で理解を深めている	法人の毎年行う身体拘束についての研修に参加した職員が会議で伝達し、全職員に周知しています。研修後や新人採用時には特に言葉による拘束について日々のケアを振り返る機会とし、職員間で注意できるよう意思統一を図っています。玄関は開錠し、利用者が靴を履かれた際は行動を制止せず付き添って自由に生活できるよう見守っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として高齢者虐待の研修があり、知識・意識の向上に努めている。事業所で伝達研修を行いスタッフ全体で理解を深め、取り組んでいる		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として権利擁護の研修があり、知識・意識の向上に努めている。事業所で伝達研修を行い、スタッフ全体で理解を深め、取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、その都度書面と口頭で説明して同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	京都市の「介護相談員」受け入れや、意見箱を設置している。家族への満足度アンケートを行い意見を聞いている	運営推進会議の場や日常的にも利用者の声を聞き、家族には面会時やプランの見直し時の他、毎月発行する便りで意見を言ってもらえるよう工夫し、また法人からのアンケートで意見を出せる機会としています。家族から転倒や誤嚥の心配の声が上がリ、全利用者と体操をしたり公園体操に出かける等筋力低下を防げるよう努めています。また案件によっては本部に挙げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで職員の意見や話し合う機会を作っている。日々のコミュニケーションからも意見を聞くように努めている。	月1回行うカンファレンスでは不参加者には事前に意見を聞き、一日2回の申し送りや申し送りノートや介護日誌にも意見を書く欄を設けたり、職員アンケート、個人面談など意見を出せる機会が多くあります。常日頃からコミュニケーションを図り、話しやすい環境の下日々の細かな意見も職員間で話し合っていており、サービスの向上に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度の「自己申告書」や、面談を行っている。また、その都度確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間研修計画が立っている。研修の内容を職員に配布し、受講を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・交流会等に参加するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な気持ちを理解し、安心して頂けるよう傍に寄り添い、話を聞く。得意なことややりたいことを見つけ、生活が充実したものになるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話時にに利用者の普段の様子を伝えと共に、不安や要望を聞き安心して頂けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員と管理者で面接を行い、本人と家族の思いを傾聴し、支援の見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の得意なことを伸ばし、一緒に行なって行くうえで、頼られる存在であることを感じ、共に支えあっていく関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その都度相談をし、状況を共有する事で、本人を支えて行く関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方と話す中で、なじみの物や場所、人を知り家族や友人・知人の面会など、本人の関係が途切れないように支援している	親戚、知人、友人の来訪時には居室へ案内し近況を伝え、お茶やおやつを出しゆっくり寛いでもらうようにし、家族と一緒に墓参りや法事、葬式への出席時には日程調整や準備などの支援をしています。経年の中で希望は出にくい状況ですが馴染みの店での買い物など家族からの情報が得られた際には、馴染みの人や場との関係が継続できるよう家族と相談しながら支援に繋がりたいと考えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での部屋の行き来、一緒に過ごすことにより、職員とはまた違う関係を築けている。リビングでの席順なども話の合う方を考慮し、工夫している		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方でも、相談があれば対応しようと考えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションや家族からの情報から、本人の意向を汲みとるように努め、本人の意思を尊重している	入居時に家族に記入してもらったアセスメントシートの情報と面談時に聞いた生活習慣等や暮らし方への希望や思いに併せ、前ケアマネジャーの情報も参考にして本人の思いを把握しています。入居後は日々の様子を記録し共有したり、困難な場合は家族に聞き、カンファレンスで話し合い、思いの把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションや家族からの情報から本人の意向を汲み取るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションや家族からの情報から本人の意向を汲み取るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族にも意見を聞きアイデアを出し合ってケアプランを作成している。沢山の意見が出るよう、スタッフ全員に事前に意見を聞くようにしている	アセスメントや本人、家族の思いを基に介護計画を作成しています。初回の計画は3か月と6ヶ月で見直し、その後は1年で更新し、必要時は随時見直しています。ケアマネジャーが日々の記録から評価を行い、カンファレンスで職員の意見を聞いて見直しています。見直し前の再アセスメントや本人、家族、医師等の意見も書面に残し、見直しに活かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや結果は、ケア記録に書いている。管理日誌や連絡帳を利用して共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別で外出したり買い物へ行くなど、家族と調整して対応している		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区役所との関わりから、地域すこやか学級の参加など、本人に合った支援を行なっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人及び家族に決めてもらっている。かかりつけ医と連絡を取り合っている	入居時に今までのかかりつけ医を継続できる事や協力医についても説明し、現在は全員の方が協力医へ変更され月2回の往診を受けています。併設の訪問看護より毎週訪問があり、24時間連絡を取れる体制があり随時指示をもらい対応しています。専門医への受診は家族が対応し、口頭や文面で情報を伝え結果の報告ももらっています。皮膚科や歯科、マッサージは希望者が往診を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜に訪問看護があり、その際に気づきや情報の共有をし、ケアにつなげている。また、随時相談や指示を受けられるよう、積極的にコミュニケーションを取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、随時病院関係者と連絡を取り合い早期退院に向けて支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行なっている。重度化した際に、主治医・看護師や家族との話し合いを設けている	入居時に看取りについて説明を行い、同意をもらっています。時期がきたら往診医が家族の意向を再確認し、医師や家族の協力が得られる場合は、ケース毎に関係者と相談しながら対応しています。訪問看護が併設されており、緊急時には速やかに訪問や指示をもらえる体制が整い、家族や職員の安心に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人としての研修があり、参加・伝建研修を行なっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	二ヶ月に一回訓練を行い、消防署などの関係機関と連絡・調整を図っている	年6回行う避難訓練は夜間を想定し、内2回は消防署の協力が得られ利用者も参加しています。通報、避難誘導、消火器の使い方などを行いアドバイスももらっています。年2回は地域へ案内を出し、運営推進会議では案内や報告を行い、地域の第1避難場所の情報も得ています。備蓄は食料品を5日分程の準備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時と年に一度のマナー研修があり、丁寧な言葉づかい笑顔で心がけている	採用時や法人の接遇マナー研修に参加した職員が伝達し、全職員に周知しています。笑顔で丁寧な言葉遣いを心がけ、また法人が実施する自己評価の結果を踏まえ、誰が聞いても不快感のないように常に敬語を使えるよう取り組んでいます。排泄時の支援では羞恥心に配慮し、出来る限りの同姓介助に努めています。不適切な対応は職員間で注意し合い、カンファレンスで話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、本人が決定しやすいような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは大体しか決まっておらず、その日の体調や気分・要望により変更している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選び等は、利用者と共に進めようとしている。外出の際は化粧をしたりおしゃれができるように声かけ、手伝っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの庭で家庭菜園に取り組み、育てることの楽しさを提供している。利用者に合わせて献立を決める・野菜を切る・盛り付け・配膳・下膳をしてもらっている	週3回スーパーへ食材を発注し、配達された食材を見て利用者と相談しながら献立を決めています。食事作りは利用者に教わる場面もあり、下拵えや後片付けまで利用者の出番も多くあります。季節の行事に合わせた食事作りや手作りおやつ、誕生日には食べたい物を聞いて作り、外食行事も楽しんでもらっています。職員も一緒に食事を摂り、さりげないサポートで楽しい食卓となるよう心がけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者と一緒に考えながら食事のバランスや量を確保している。また、利用者によって形態を変え提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの介助と、週に一回の歯科衛生士によるケアで支援を行なっている		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を付けて本人の排泄パターンを把握することにより本人の負担を軽減できるように支援を行なっている	排泄は自立の方も多く、支援の必要な方は排泄記録からパターンを把握し、その方に合わせ声かけや誘導を行っています。また立位を保てるよう二人介助で支援を行うなどトイレで排泄できるように支援しています。夜間は紙パンツとパッドの方も昼間は布の下着で過ごしてもらい、本人に合った排泄用品の検討も重ね失敗を減らせるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを記録し、本人の排泄パターンを探り、下剤に頼らず日中の水分量・運動などその方に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の時間に合わせて、一人一人ゆっくり入浴していただいている	入浴は概ね3日毎に入ってもらい、日中の時間帯で入りたい時間に入れるよう配慮をしています。入浴を拒否される方は無く、柚子、菖蒲を用いた季節湯や好みのタオルや拘りのある物を利用者が準備されることもあり、ゆっくりと入浴を楽しんでもらっています。重度の方には寒く無いよう足浴しながらシャワー浴とで対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態をみて、昼寝を進めてみたり、記録に睡眠の時間帯を記入して対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されて薬の説明を、確認するシステムを構築し、用途や副作用・処方量などの確認に努めている。薬が変更時薬剤師・看護師・往診医に質問できる体制が出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々でそれぞれ得意なことで活躍できる場面を作れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一対一で個別対応に努め、買い物や散歩に行くように心がけている。	天気の良い日には近所の庭に咲く花を見に行ったり、駐車場で外の気浴や洗濯物干し、ゴミ捨て、回覧板を回しに行くなど日常の中で戸外に出る機会を多く作っています。外出行事では桜、紅葉狩りなどの花見の他、敬老会では日本庭園が美しい「しょうざん」へ出かけています。外食を兼ねた買い物などの外出支援も楽しんでいます。	

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事などのときに個別で買い物をしたりしている。家族に了解を得て、小銭を自己管理されているかたもいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、自由に使える状況である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は一般家庭にある物を使用してもらっている。レイアウトで季節感を出すようにしている	下駄箱や家具類は家庭にある物を置き家庭的な雰囲気作りに努め、テーブルの配置の工夫や不要な物の入れ替えを行ない、車いすの利用者も安全に移動しやすく、居心地良く過ごせる空間作りを工夫しています。廊下にソファを置き落ち着ける場として活用され、季節感を感じてもらえるよう手作りの作品なども飾っています。利用者の体感に配慮した空調管理や利用者も一緒に掃除を行い清潔を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ローカにソファを設置し、ゆっくり過ごせる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や小物を持参していただくことにより出来る限り自宅の雰囲気をだし、その人らしい空間になっている。環境の変化に配慮している	自宅と同じように過ごせるよう新品でなく馴染みの物を持参してもらうよう家族に伝え、筆筒、ソファ、鏡台、テレビ、椅子など使い慣れた物を持ち込んでいます。家族の相談を受け家具の配置を工夫したり、趣味の編み物や大正琴を置いたり、家族の写真を飾る方などその人らし居室となるよう配慮がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所、各居室に表札をつけわかりやすく工夫し、GHが利用者の家であることを表現する工夫をしている		